ONKYO

インテグレーテッドアンプ

A-9070

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切
に保管してください。

主な特長

- 各チャンネル 140 W 4 Ω（20Hz ～ 20,000Hz）全高調波歪率 0.05%以下
- 再生周波数の広帯域化を図る A WRAT（Advanced Wide Range Amplifier Technology）搭載
- 「DIDRC（Dynamic Intermodulation Distortion Reduction Circuitry）」技術搭載
- ３段インバーテッドダーリントン回路を採用
- 電力段左右対称の内部レイアウト
- ４つの大型音質コンデンサを採用
- 振動対策のためのサイドパネルマウンティング構造を採用
- デジタル / アナログで独立した回路を搭載
- 表示部に低ノイズのスタティック表示方式採用
- 新たに正確な信号を作り出し、デジタル信号のゆらぎを排除する PLL（Phase Locked Loop）方式ジッタークリーナー搭載
- L/R チャンネルに独立した Wolfson 社製 192 kHz /24bit D/A コンバーター（WM8742）搭載
- ダイレクト機能搭載
- 音質（低音 / 高音）調節機能搭載
- バランス調節機能搭載
- DIDRC ヘッドホンアンプ搭載
- ディスクリートフォノイコライザー搭載
- フォノ入力対応（MM/MC）
- ディエンファシス機能搭載 *1
- デジタル入力 3 系統装備（同軸２系統、光 1 系統）
- 真鍮製の金メッキ音声端子装備
- 金メッキスピーカー端子装備
- 表示部ディマー機能

*1 32kHz、44.1kHz、48kHz のサンプリングレートに限ります。それ以外のサンプリングレートでは、ディエンファシス機能は働きません。

目次

はじめに

接続をする

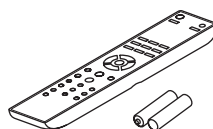
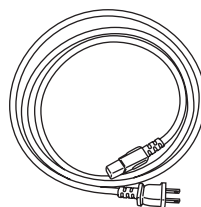
基本操作をする

応用設定をする

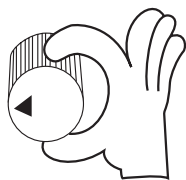
その他

付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-830S）. . . . .（1）
乾電池（単４形、R03）. . . . .（2）

電源コード（2m）. . . . .（1）

取扱説明書（本書）. . . . .（1）
保証書 . . . .（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内 . . . .（1）
ユーザー登録カード . . . .（1）

* カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面から 30cm 以上、横から 10cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない。
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■機器内部の点検について

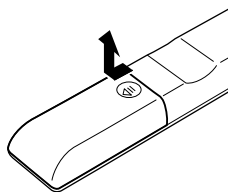
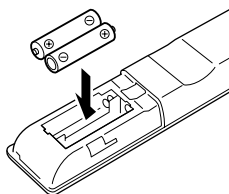
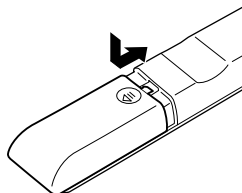
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

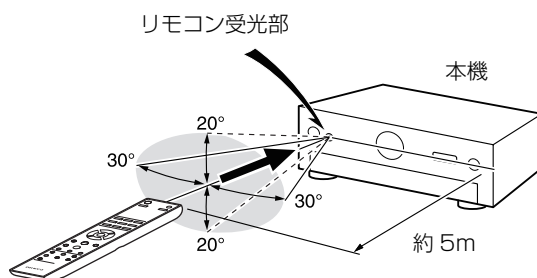
お使いになる前に

乾電池を入れる

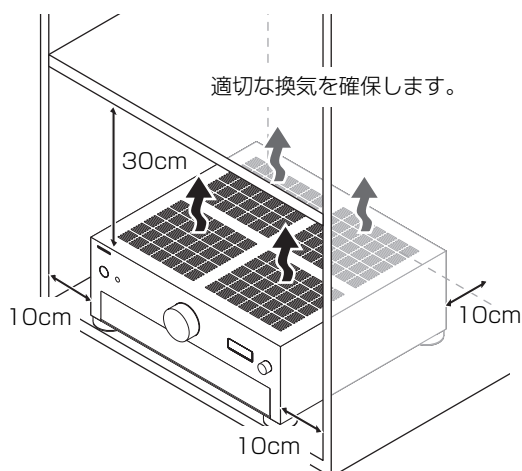
1 小さなくぼみを押しながら、スライドし電池カバーを開ける

2 図の極性に合わせて電池（単４形、R03）を入れる

3 電池カバーを元に戻す

ご注意

- リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、２本とも新しい電池と交換してください。
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておくと、腐食によりリモコンをいためることがあります。

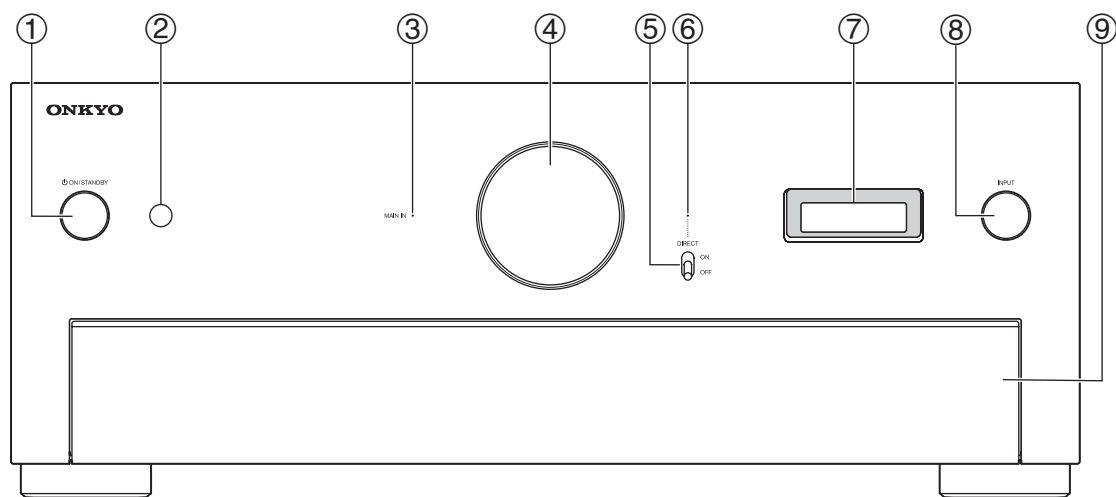
リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

ご注意

- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に何も置かないでください。圧力がかかると電池が液漏れする場合があります。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物があると、リモコンが正常に機能しないことがあります。

本機を設置する

頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に４つの足に分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機は、高い変換効率を持つように設計されていますが、その温度は他のオーディオ機器よりも高くなります。適切な換気を確保して、放熱を妨げないようにしてください。

本機について

前面パネル

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **ON/STANDBY ボタン**（➔ P.25）
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **リモコン受光部**（➔ P.7）
リモコンからの信号を受信します。

③ **MAIN IN** LED（➔ P.24）
本機をパワーアンプとして使用している（MAIN モード）とき、点灯します。

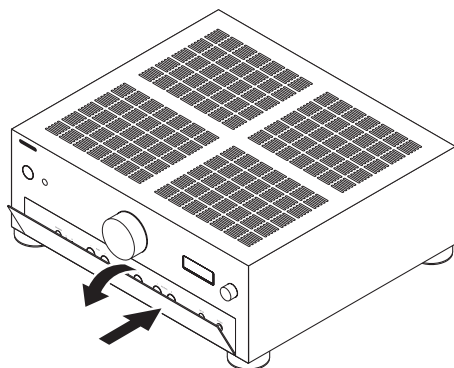
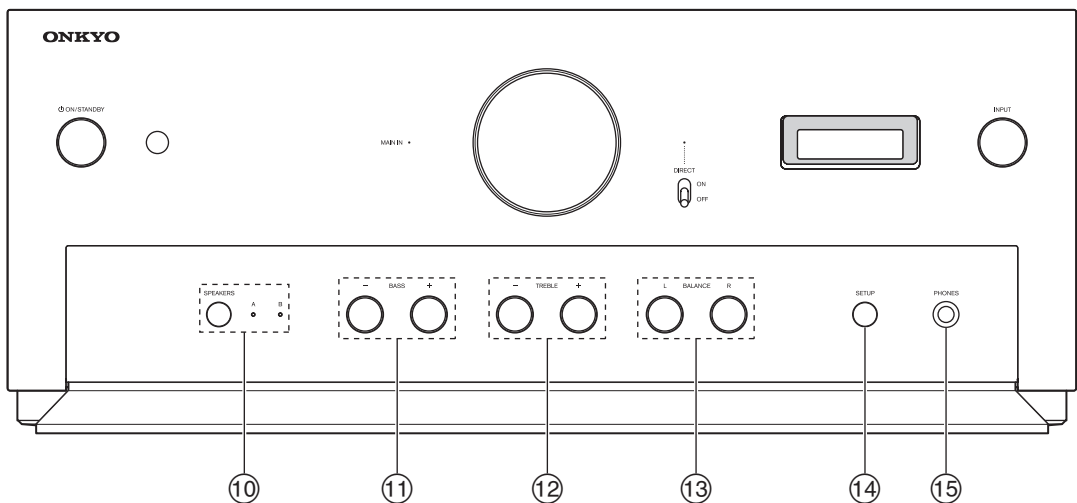
④ **ボリュームつまみ**（➔ P.26）
音量を調節します。

⑤ **DIRECT** スイッチ（➔ P.27）
ダイレクト機能の **ON** と **OFF** を切り換えます。

⑥ **DIRECT** LED（➔ P.27）
ダイレクト機能が **ON** になっているときに点灯します。

⑦ **表示部**
さまざまな情報を表示します。

⑧ **INPUT** ダイヤル（➔ P.27、34）
このダイヤルを回すと、入力ソースを順番に表示部に表示します。また各設定を選択します。

⑨ **フロントドア**
前面パネルの下部をゆっくりと押して、開けてください。

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

⑩ **SPEAKERS**（スピーカーズ）**ボタンと A/B** LED（➔ P.26）
出力するスピーカーをスピーカー A、スピーカー B のいずれか、または両方から選択します。選択しているスピーカー出力に合わせて **A**/**B** LED が点灯します。

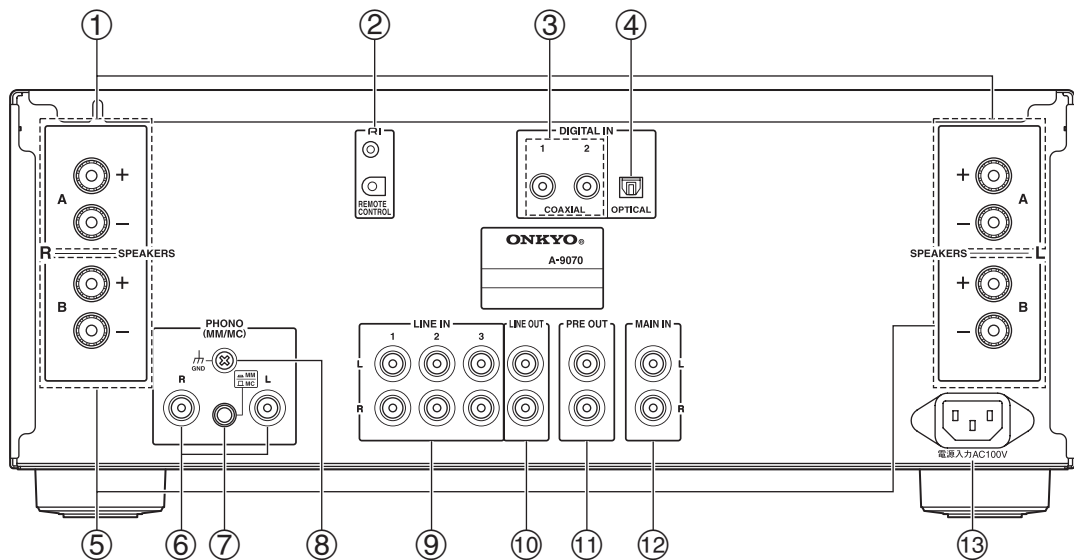
⑪ **BASS**（バス）**-/+ ボタン**（➔ P.28）
低音の音量を調節します。一回押すと、現在の設定値が表示されます。

⑫ **TREBLE**（トレブル）**-/+ ボタン**（➔ P.28）
高音の音量を調節します。一回押すと、現在の設定値が表示されます。

⑬ **BALANCE**（バランス）**L/R ボタン**（➔ P.28）
左右の音声バランスを調節します。

⑭ **SETUP**（セットアップ）**ボタン**（➔ P.34）
各設定を選択または確定します。

⑮ **PHONES**（フォーンズ）**端子**（➔ P.30）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

後面パネル

① **SPEAKERS A 端子**
スピーカー A を接続します。

② **RI REMOTE CONTROL 端子**
RI 端子付きオンキヨー製 CD プレーヤー、ネットワークチューナー、RI ドックと接続し、連動させる端子です。

③ **DIGITAL IN COAXIAL 1/2 端子**
CD プレーヤーなど、COAXIAL（同軸）デジタル音声出力機器と接続するデジタル音声入力端子です。

④ **DIGITAL IN OPTICAL 端子**
CD プレーヤーなど、OPTICAL（光）デジタル音声出力機器を接続するデジタル音声入力端子です。

⑤ **SPEAKERS B 端子**
スピーカー B を接続します。

⑥ **PHONO（MM/MC）L/R 端子**
レコードプレーヤーを接続するためのアナログ音声入力端子です。

⑦ **MM/MC 切換スイッチ**
レコードプレーヤーのカートリッジの形式（**MM** 型/**MC** 型）に合わせて切り換えます。

⑧ **GND 端子**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑨ **LINE IN 1/2/3 L/R 端子**
再生機器を接続するためのアナログ音声入力端子です。

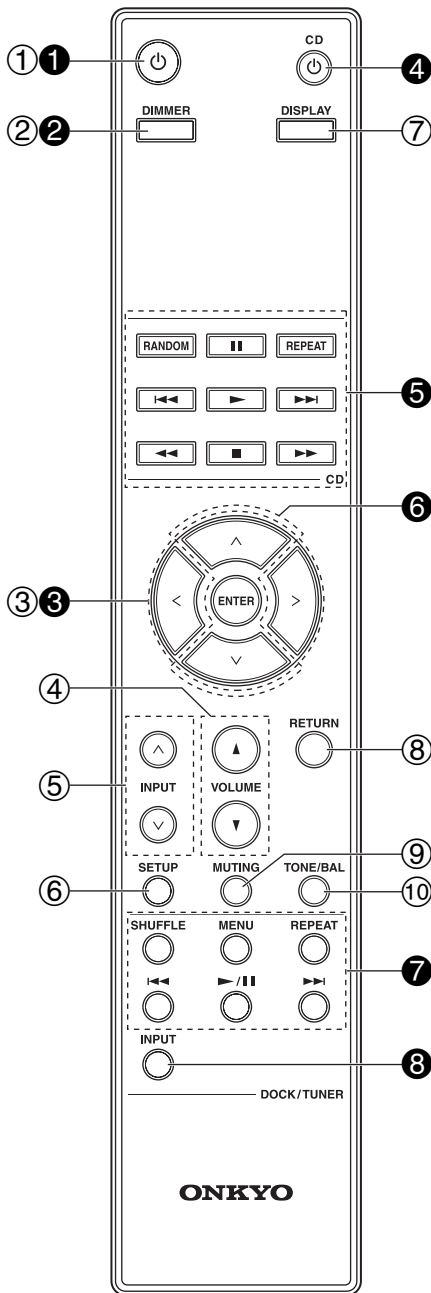
⑩ **LINE OUT L/R 端子**
アナログラインレベル機器などに接続します。
PHONO/**DIGITAL IN**/**LINE IN** に入力された信号がラインレベルで出力されます。

⑪ **PRE OUT L/R 端子**
本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。

⑫ **MAIN IN L/R 端子**
本機をパワーアンプとして使用するときに、プリアンプを接続します。

⑬ **電源入力 AC100V 端子**
付属の電源コードを接続します。

接続については「接続をする」をご覧ください
（➔ P.12 ～ 24）。

リモコン

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① ⏻ **ボタン**（➔ **P.25**）
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **DIMMER ボタン**（➔ **P.27**）
表示部の明るさを切り換えます。

③ **∧/∨/＜/＞/ENTER ボタン**
設定項目を選択します。**ENTER** ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

④ **VOLUME ▲/▼ ボタン**（➔ **P.26**）
音量を調節します。

⑤ **INPUT ∧/∨ ボタン**（➔ **P.27**）
入力ソースを選択します。

⑥ **SETUP ボタン**（➔ **P.34**）
設定メニューに入ります。

⑦ **DISPLAY ボタン**（➔ **P.29**）
表示部の情報を切り換えます。

⑧ **RETURN ボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

⑨ **MUTING ボタン**（➔ **P.30**）
音を一時的に小さくします。

⑩ **TONE/BAL ボタン**（➔ **P.28**）
低音、高音、バランスを選択します。

リモコンでお手持ちのオンキヨー製 CD プレーヤー（C-7070 など）、オンキヨー製ネットワークチューナー（T-4070 など）、オンキヨー製ドック（ND-S1000 など）を操作することができます。

ご注意

- リモコンを CD プレーヤーに向けて操作してください。
- 製品によっては対応していないものや一部操作が出来ないものもあります。
- オンキヨー製ドックとオンキヨー製ネットワークチューナーを操作するには、RI 接続が必要です（➔ **P.19**）。
- 各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■オンキヨー製 CD プレーヤーを操作する（➔ P.31）

❹ ⏻ **CD ボタン**
❺ **再生モードボタン**

■オンキヨー製ドックを操作する（➔ P.32）

❶ ⏻ **ボタン**
❷ **DIMMER ボタン**
❻ **∧/∨/ENTER ボタン**
❼ **ドック操作ボタン**

■オンキヨー製ネットワークチューナーを操作する（➔ P.33）

❶ ⏻ **ボタン**
❷ **DIMMER ボタン**
❸ **∧/∨/＜/＞/ENTER ボタン**
❼❽ **チューナー操作ボタン**

接続をする

スピーカーを接続する

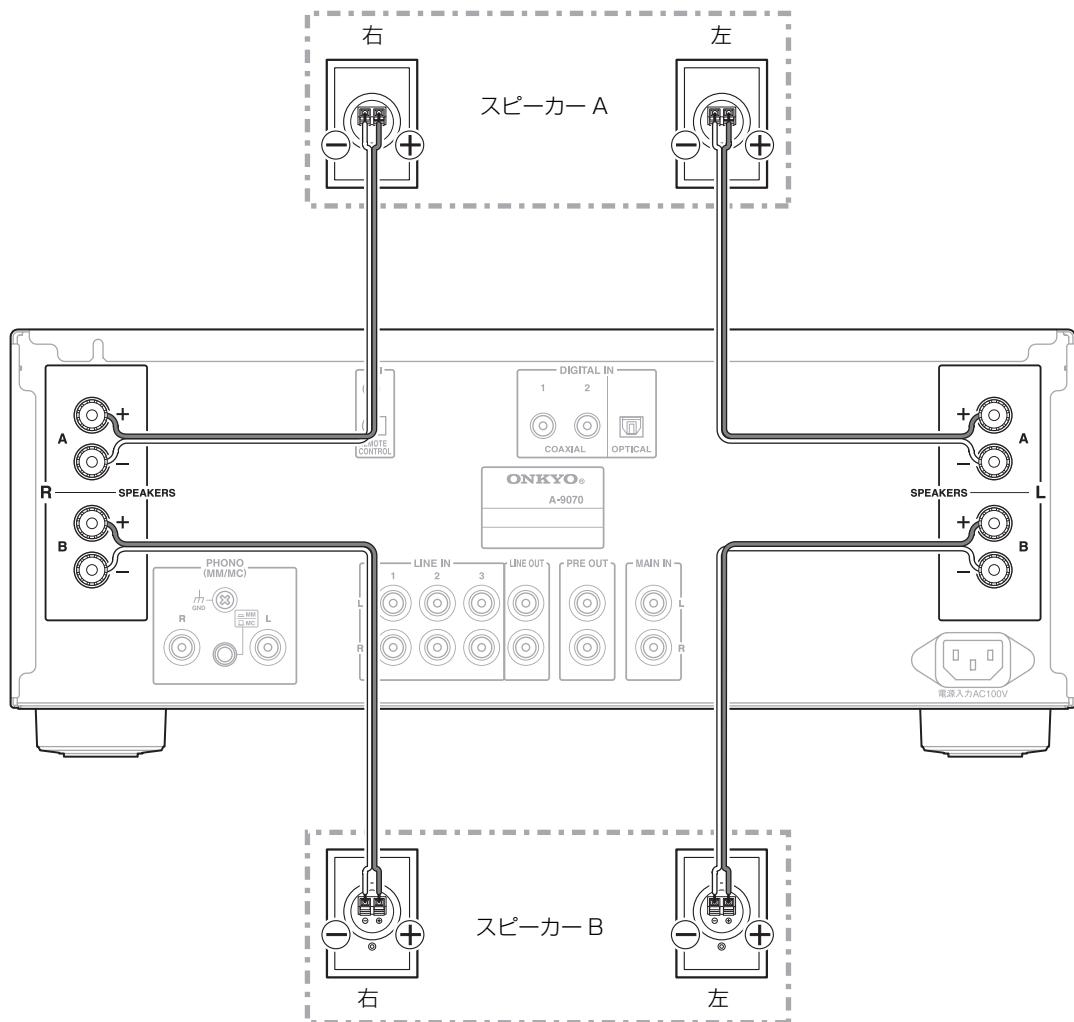
右　左

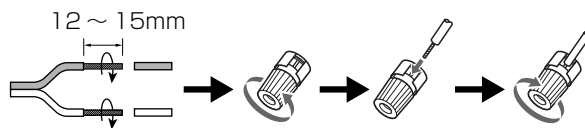
スピーカー A

SPEAKERS A B R L

ONKYO A-9070

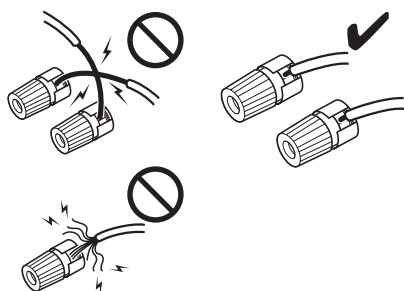
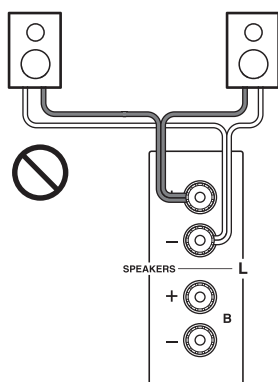
スピーカー B

右　左

■ ネジ式スピーカー端子

スピーカーコードの被覆を先端から 12 ～ 15mm 剥ぎ、芯線をしっかりよじります。

■ バナナプラグ

- スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
- スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

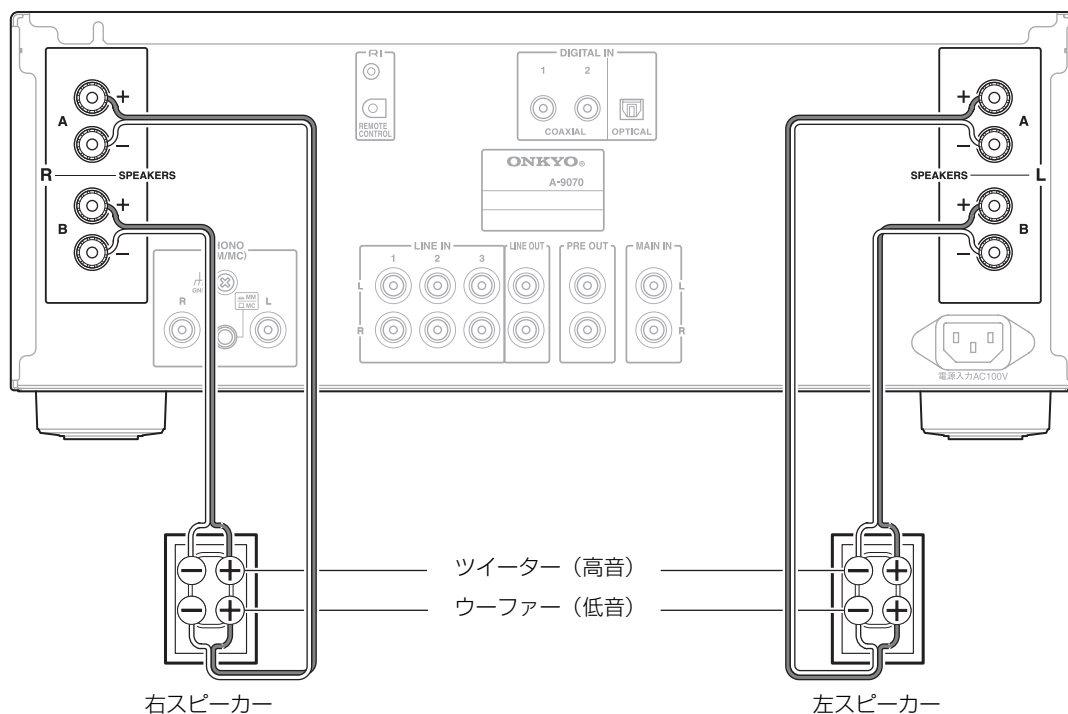
ご注意

- Y プラグは接続できません。
- 本機には 2 セットのスピーカー（スピーカー A とスピーカー B）を接続できます。音楽を鑑賞するときに、どちらのスピーカーから音を出すか選択できます。また、両方のスピーカーから音を出すこともできます。
- スピーカー A または B 端子の一方だけに接続する場合は、インピーダンスが 4 ～ 16 Ω（オーム）のスピーカーを使用してください。
- スピーカー A と B 端子の両方に接続する場合は、インピーダンスが 8 ～ 16Ω のスピーカーを使用してください。8Ω 未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合に、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。
- 必ず、プラス（+）端子はプラス（+）端子と、マイナス（－）端子はマイナス（－）端子と接続するようにしてください。間違って接続すると、逆位相になり再生音が不自然になります。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの芯線を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。

- 1 つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。故障の原因になります。

バイワイヤリングで接続する

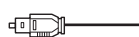
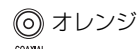
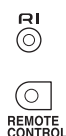
バイワイヤリング接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることができます。

SPEAKERS A 端子および **SPEAKERS B** 端子を使用して、低域信号と高域信号を分けて配線します。

重要

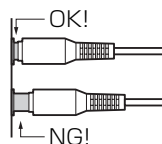
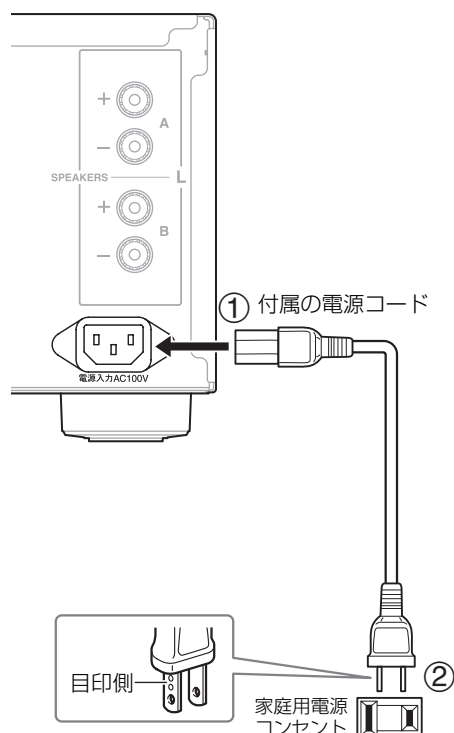
- バイワイヤリング接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。
- バイワイヤリング接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐショート金具を必ず取り外してください。
- バイワイヤリング接続をするときは、**SPEAKERS A** 端子および **SPEAKERS B** 端子を使用する設定にしてください（➔ P.26）。

ヒント

- イラストでは、**SPEAKERS A** 端子をウーファーに **SPEAKERS B** 端子をツイーターに接続していますが、逆に接続することも可能です。

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

光デジタルケーブル （OPTICAL）		OPTICAL	PCM デジタル音声を楽しむことができます。 PCM 入力信号で利用できるサンプリング周波数は、最大 96 kHz /24bit、2 チャンネルです。
同軸デジタルケーブル * （COAXIAL）		COAXIAL オレンジ	PCM デジタル音声を楽しむことができます。 PCM 入力信号で利用できるサンプリング周波数は、最大 192kHz/24bit、2 チャンネルです。 75 Ω でインピーダンスマッチングされます。
オーディオ用 ピンケーブル		L 白 R 赤	アナログ音声信号を伝送します。
RI ケーブル		RI REMOTE CONTROL	RI（リモートインタラクティブ）機能を使う場合は、本機とオンキヨー製 CD プレーヤー、ネットワークチューナーや RI ドックを RI ケーブルで接続する必要があります。

ご注意

- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、音声ケーブルや電源・スピーカーケーブルが接近しないようにしてください。
- 本機の光デジタル端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。
- PCM 以外のデジタル音声信号を入力しないでください。

* 同軸デジタルケーブルの代わりにオーディオ用ピンケーブルを使用することは可能ですが、同軸デジタルケーブルまたはビデオケーブルを使用していただくことを推奨します。

電源コードを接続する

1 **すべての接続が完了していることを確認する**

2 **付属の電源コードを、本機の電源入力 AC100V 端子に接続する**

3 **電源コードを家庭用電源コンセントに接続する**

より良い音で聴いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ヒント

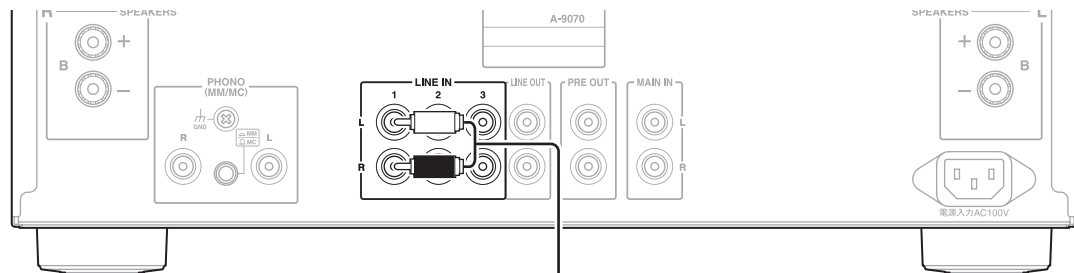
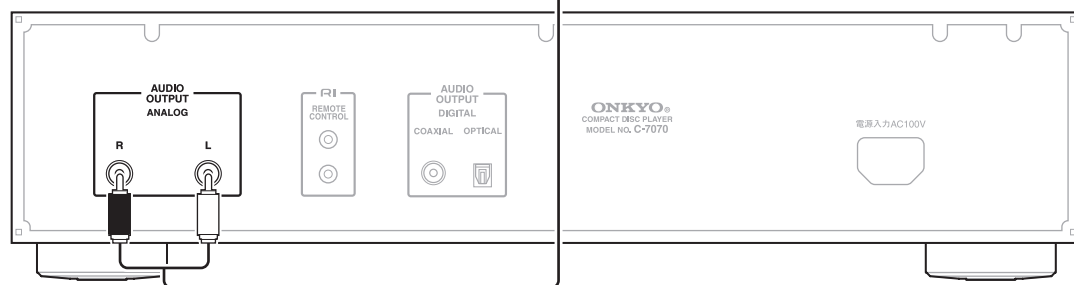
- ノイズを抑えるため、信号ケーブルと電源ケーブルは一緒に束ねず、お互いに離して配線してください。

ご注意

- **家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。**電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の電源をスタンバイにしてから抜いてください。

CD プレーヤーを接続する

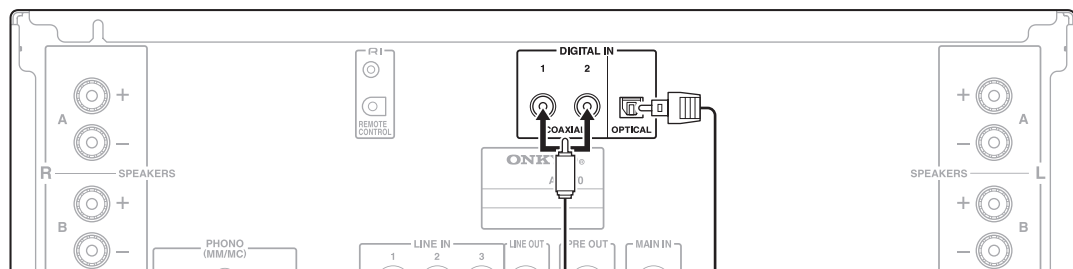
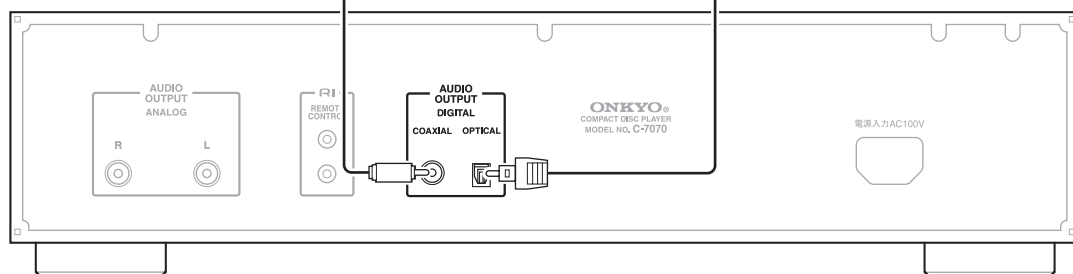
別売りのオンキヨー製 CD プレーヤー C-7070 との接続例です。

アナログで接続する

ヒント

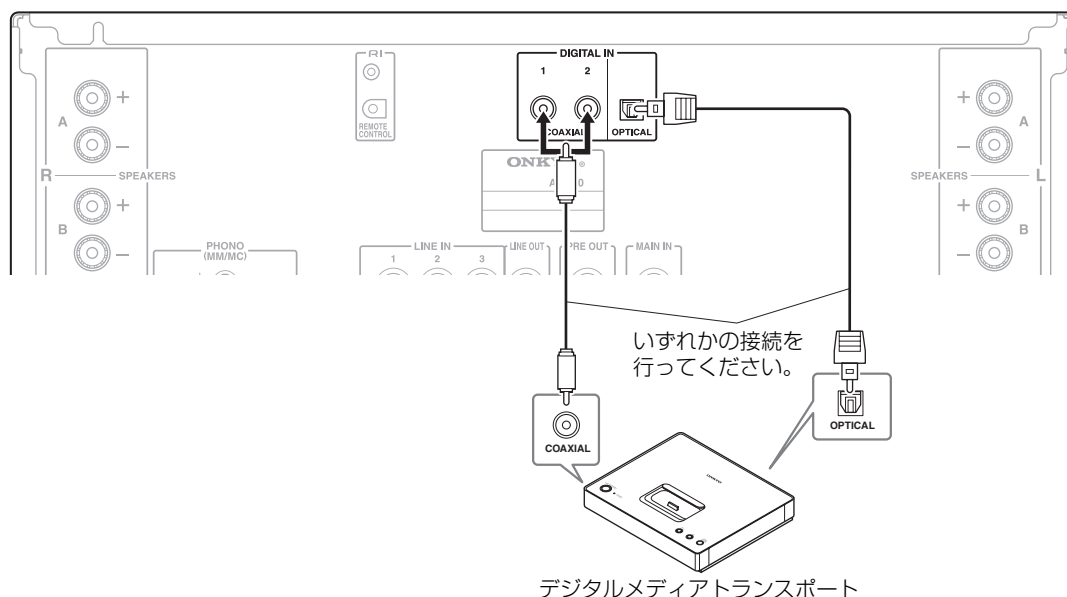
ライン　イン
- **LINE IN 1**/**2**/**3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

　　　　　　　コアキシャル　　　　　　　　　　　　オプティカル
デジタル（COAXIAL（同軸）または OPTICAL（光））で接続する

本機

ヒント

- **COAXIAL 1**/**2** 端子、**OPTICAL** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

オンキヨー製ドックを接続する

別売りのオンキヨー製デジタルメディアトランスポートとの接続例です。

ご注意

- デジタル接続タイプのオンキヨー製ドックをご使用ください。
- RI 機能を使用する場合、入力の入力名を変更する必要があります（➔ P.19、34）。

ヒント

- **COAXIAL 1**/**2**（コアキシャル）端子、**OPTICAL**（オプティカル）端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

チューナーを接続する

別売りのオンキヨー製ネットワークチューナー T-4070 との接続例です。

ご注意

- **RI** 機能を使用する場合、入力の入力名を変更する必要があります（➔ P.19、34）。

アナログで接続する

ヒント

- **LINE IN 1**/**2**/**3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

デジタル（COAXIAL（同軸）または OPTICAL（光））で接続する

ヒント

- **COAXIAL 1**/**2** 端子、**OPTICAL** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI ドック

ネットワークチューナー、CD プレーヤー

1 接続した機器に合わせて入力の入力名を変更する（➔ P.34）

接続機器	入力名
CD プレーヤー	CD
ネットワークチューナー	TUNER
RI ドック	DOCK

2 各オンキヨー製 CD プレーヤー、ネットワークチューナー、RI ドックが、接続されていることを確認する（➔ P.16 ～ 18）

3 RI ケーブルを接続する

RI（リモートインタラクティブ）機能で、以下のシステム機能を利用できます。

■ オートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI 接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ ダイレクトチェンジ

RI 接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■ システムオフ

本機の電源を切ると、RI 接続されている機器の電源が自動的にオフになります。

■ リモコン操作

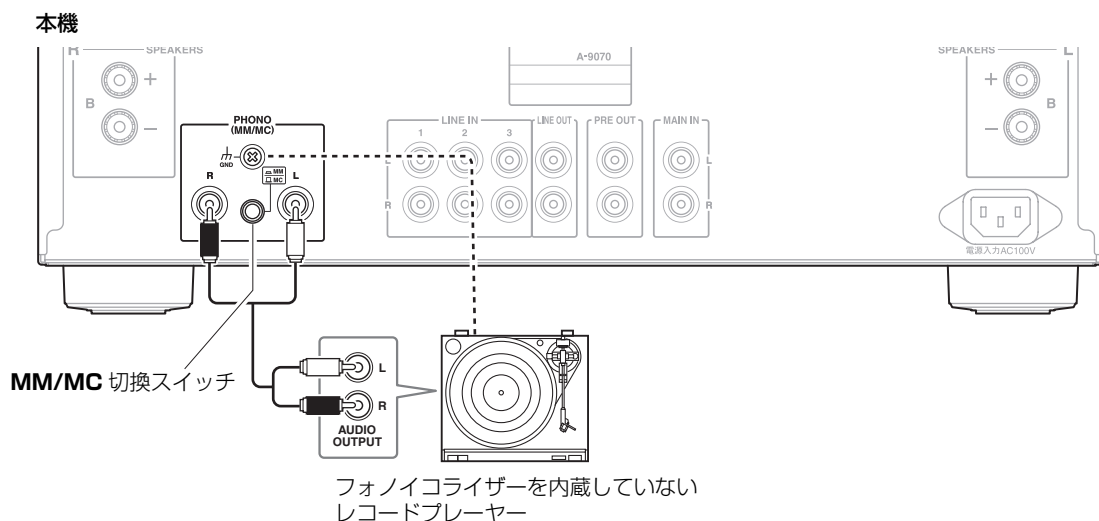
本機のリモコンを使って、RI に対応しているオンキヨー製ネットワークチューナー、RI ドックを操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。

ヒント

- 接続機器の操作に関しては「本機のリモコンで他のオンキヨー製品を操作する」をご覧ください（➔ P.31）。

ご注意

- RI ケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- RI 端子が２つある場合、２つの端子の働きは同じです。どちらにもつなぐことができます。
- 本機の RI 機能は、オンキヨー製 CD プレーヤー（C-7070 など）、ネットワークチューナー（T-4070 など）、RI ドック（ND-S1000 など）にのみ対応しています。MD レコーダーなど他の機器では、適切に働きません。
- 製品によっては、RI 接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- CD プレーヤーは、オートパワーオンとダイレクトチェンジのみに対応しています。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。

レコードプレーヤーを接続する

レコードプレーヤーのカートリッジ形式に合わせて、本機の後面パネルの **MM/MC** 切換スイッチで **MM**/**MC** を切り換えます。

レコードプレーヤーを **PHONO** 端子に接続する前に、端子に挿入されているショートピンを外してください。

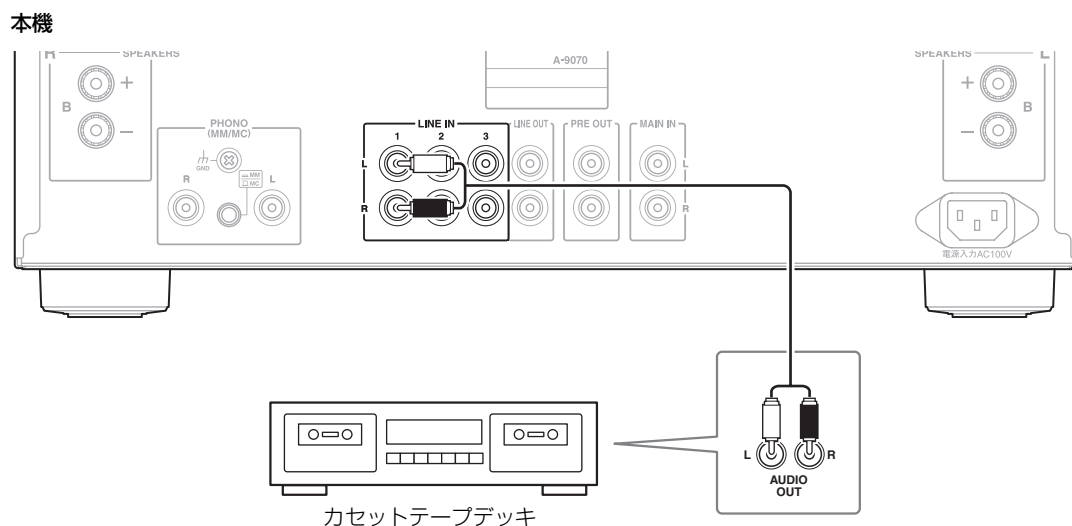
ご注意

- **MM**/**MC** の切り換えは、必ず本機の電源がオフの状態で行ってください。

ヒント

- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合、**LINE IN 1** 端子などその他のアナログ入力端子に接続することができます。
- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の **GND** 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

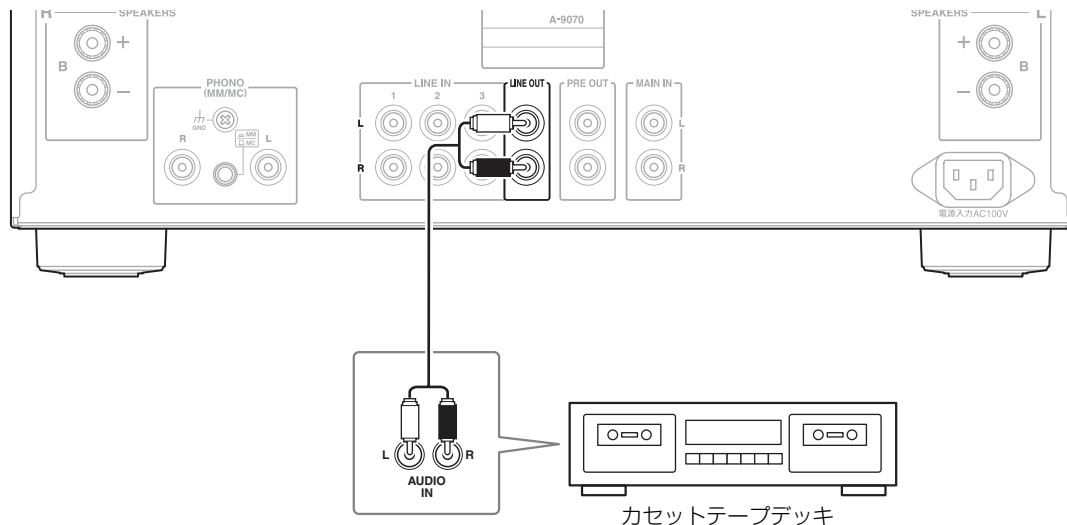
カセットテープデッキを接続する

ヒント

- **LINE IN 1**/**2**/**3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

録音機器を接続する

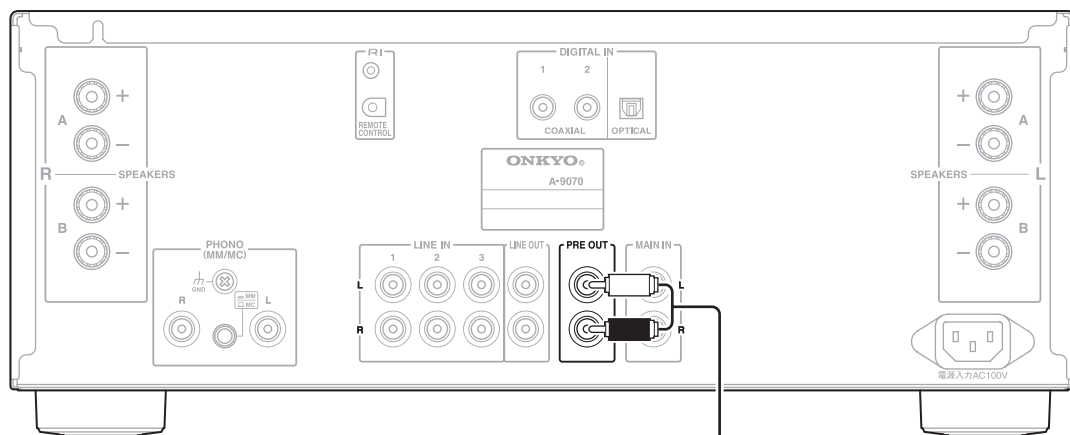
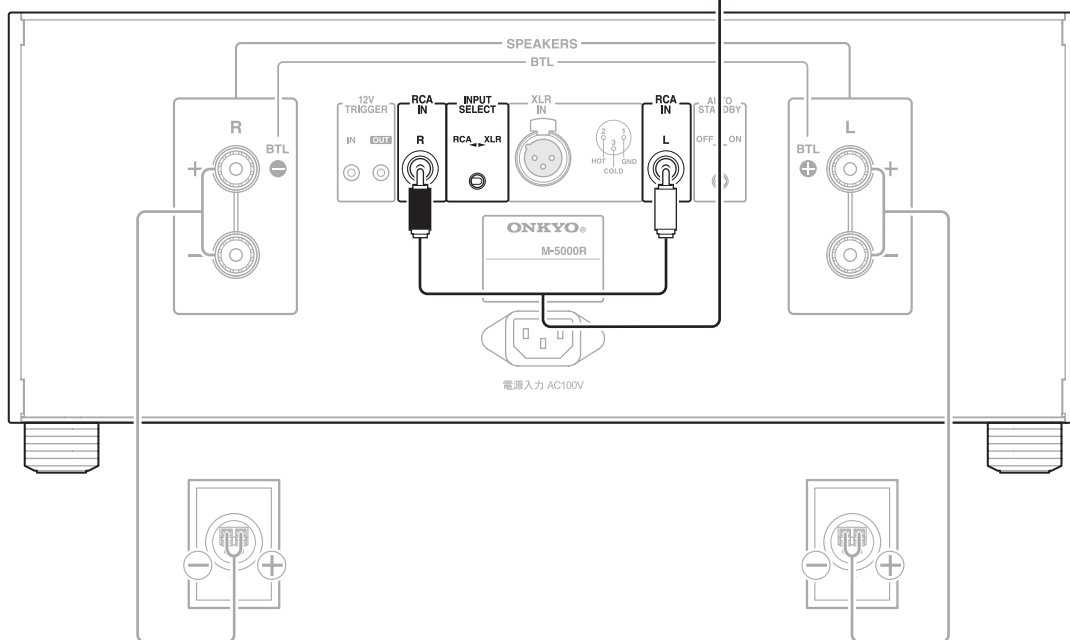
重要
- あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 録音中は本機の入力を切り換えないでください。途中で入力を切り換えると、新しく選択された機器からの音声が録音されてしまいます。

ご注意
- 音量調節および **MUTING** ボタンでの操作は、**LINE OUT** 端子から出力される音声信号には反映されません。
- **BASS -/+** ボタン、**TREBLE -/+** ボタン、**BALANCE L/R** ボタン、**TONE/BAL** ボタンで設定した内容は、**LINE OUT** 端子から出力される音声信号には反映されません。
- 詳しい操作方法は、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

本機

本機をプリアンプとして使用する

本機をプリアンプとして使用し、お好みのパワーアンプと接続することができます（PRE モード）。プリメインアンプとして使用する場合よりも、本機の発熱を少し抑えることができます。
別売りのオンキヨー製パワーアンプ M-5000R との接続例です。

重要

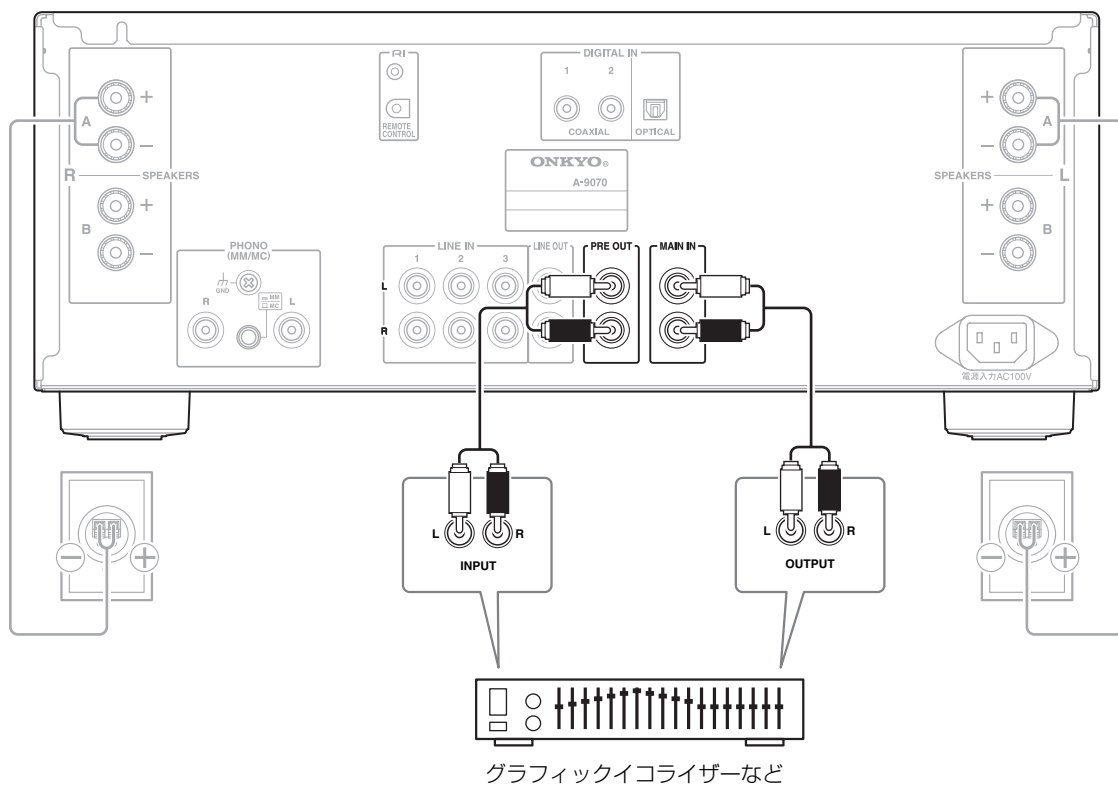
- このモードを使用すると、**SPEAKERS**（スピーカーズ） ボタンは使用できません。
- このモードを使用するには、「ROUTE」設定を変更する必要があります（➔ P.38）。

プリアンプ部とメインアンプ部を分けて使用する

本機のプリアンプ部とメインアンプ部を独立して使用することができます（SPLIT モード）。グラフィックイコライザーなどのエフェクター機器をプリアンプ部とメインアンプ部の間に接続します。

重要

- **MAIN IN**（メイン イン）端子に接続する前に、必ず本機の電源をオフにしてください。
- このモードを使用するには、「ROUTE」設定を変更する必要があります（➔ P.38）。

本機

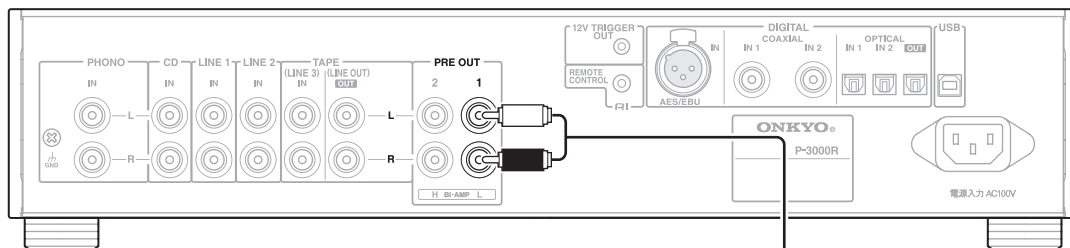
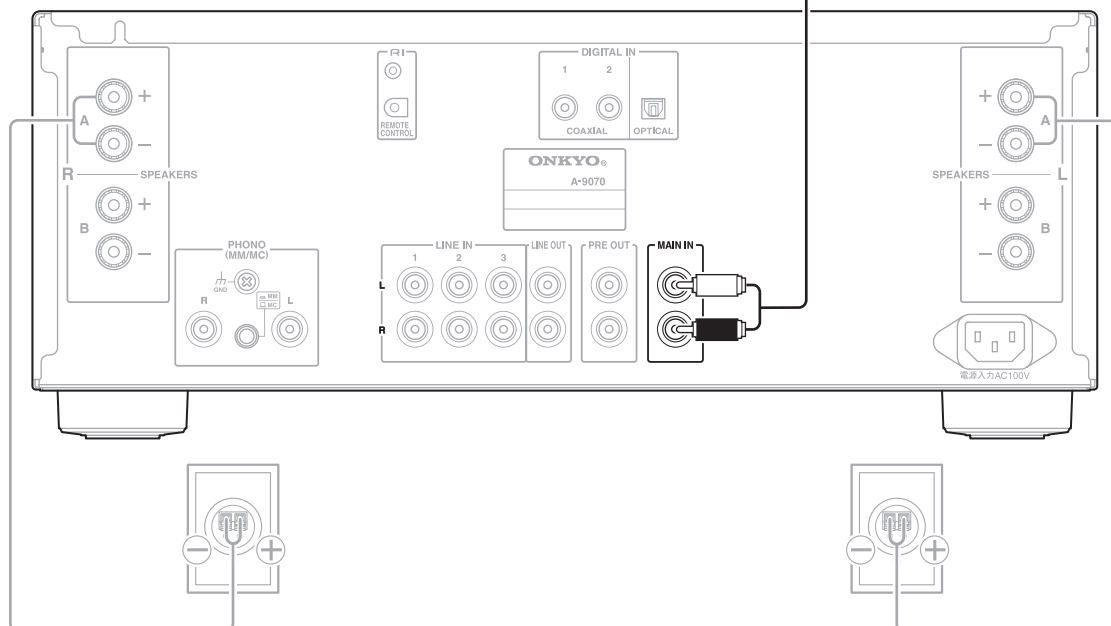
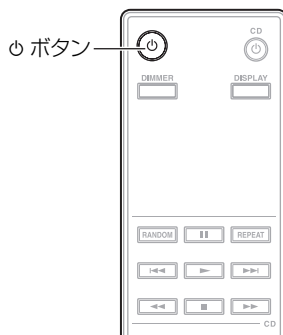
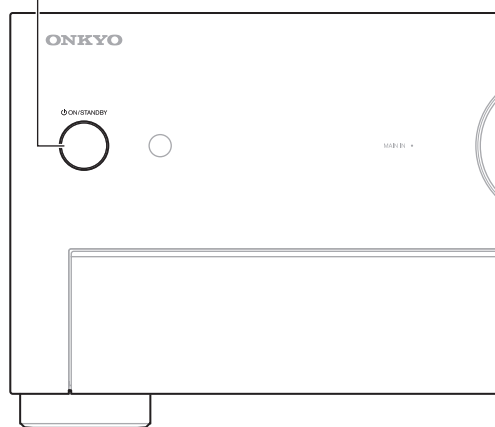
グラフィックイコライザーなど

ご注意

- エフェクター機器によっては、電源をオン・オフ時にノイズが発生する場合があります。その場合は、エフェクター機器の電源をオンしてから本機の電源をオンにし、本機の電源をオフにしてからエフェクター機器の電源をオフにしてください。

本機をパワーアンプとして使用する

本機をパワーアンプとして使用し、お好みのプリアンプと接続することができます（MAIN モード）。このモードを選択すると、**MAIN IN** LED が点灯します。スピーカーの接続方法は「スピーカーを接続する」をご覧ください（➔ P.12）。別売りのオンキヨー製プリアンプ P-3000R との接続例です。

重要

- **MAIN IN** 端子に接続する前に、必ず本機の電源をオフにしてください。
- 「MAIN」モードに設定を変更する前に、CD プレーヤーなどのソース機器が **MAIN IN** 端子に接続されていないことを、必ず確認してください。ソース機器のライン出力を **MAIN IN** 端子に直接接続すると、爆発的な大音量が出て、本機やスピーカーが破損するおそれがあります。
- このモードでは、以下のような制限があります。
  - 音量調節はできません。
  - **SPEAKERS** ボタンと **SETUP** ボタンの機能のみ使用できます。
  - **MAIN IN** 端子と **SPEAKERS** 端子のみ使用できます。
  - ヘッドホンは使用できません。
  - 自動スタンバイ機能は働きません（➔ P.37）。
- このモードを使用するには、「ROUTE」設定を変更する必要があります（➔ P.38）。

基本操作

本機の電源を入れる・切る

本機の電源を入れる

■リモコンで操作する

1 **⏻ ボタンを押す**
表示部が点灯します。

■本体で操作する

1 **⏻ON/STANDBY ボタンを押す**
表示部が点灯します。

ヒント

- 電源を入れたとき、本機の表示部に音量を表示した後、本機が完全に起動するまでの数秒間「MUTING」が点滅します。
- 一定時間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- 本機は電源をオフにした際の状態を記憶し、電源をオンにすると前回電源オフ時の状態に戻ります。

本機の電源を切る

■リモコンで操作する

1 **⏻ ボタンを押す**
本機がスタンバイ状態になり、表示部が消灯します。

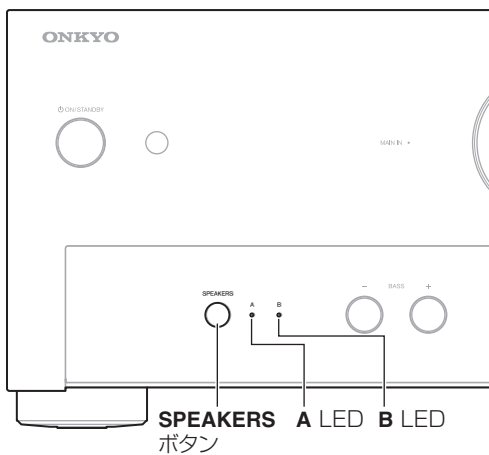
■本体で操作する

1 **⏻ON/STANDBY ボタンを押す**
本機がスタンバイ状態になり、表示部が消灯します。

ヒント

- 電源の設定については、「自動スタンバイを設定する」をご覧ください（➔ P.37）。

スピーカー A とスピーカー B を選択する

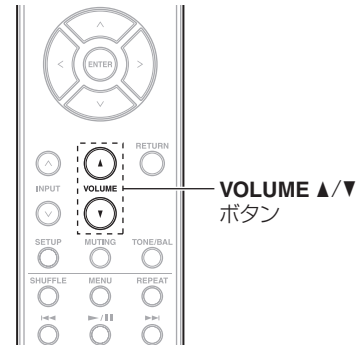
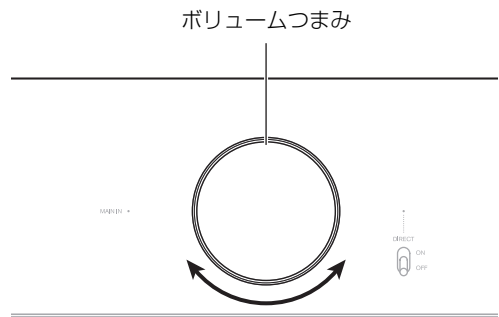
出力するスピーカーをスピーカー A、スピーカー B のいずれか、または両方から選択します。

1 **SPEAKERS ボタンをくり返し押す**（スピーカーズ）
選択したスピーカーの LED が点灯します。

ご注意

- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。
- 「ROUTE」を「PRE」に設定している場合は、使用できません（➔ P.38）。
- スピーカー A、スピーカー B の両方を選択する場合、スピーカーのインピーダンスが制限されます。詳しくは「スピーカーを接続する」をご覧ください（➔ P.12）。

音量を調節する

以下の範囲で音量の調節ができます。
「VOLMIN」、「-95 dB」、「-90 dB」、「-85 dB」、「-80 dB」から「14 dB」、「VOLMAX」

■リモコンで操作する

1 **VOLUME ▲/▼ ボタンをくり返し押す**（ボリューム）

■本体で操作する

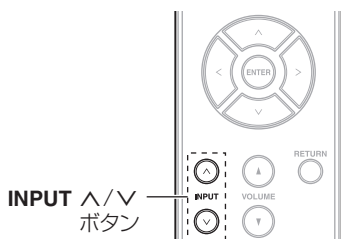
1 **ボリュームつまみを回す**

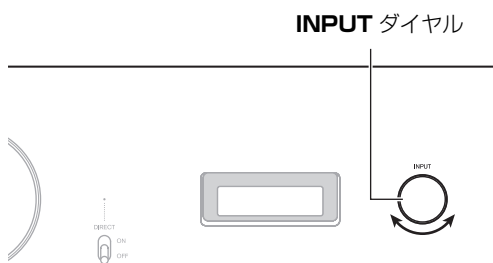
ヒント

- お買い上げ時は「-55 dB」に設定されています。

入力ソースを選択する

入力を切り換えて、再生する機器を選択します。
以下の入力から選択できます。
「LINE1」、「LINE2」、「LINE3」、「COAX1」、「COAX2」、「OPT」、「PHONO」

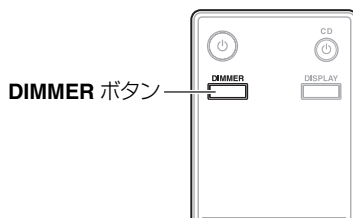
■ リモコンで操作する

1 **INPUT**（インプット） **∧/∨ ボタンをくり返し押す**

■ 本体で操作する

1 **INPUT ダイヤルを回す**

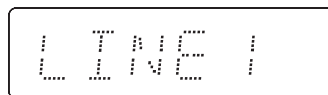
ヒント

- 入力の入力名を変更するには「入力名を変更する」をご覧ください（➔ P.34）。
- 使用してない入力の入力名を非表示にするには「入力名の表示 / 非表示を切り換える」をご覧ください（➔ P.35）。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えます。

1 **DIMMER**（ディマー） **ボタンをくり返し押す**

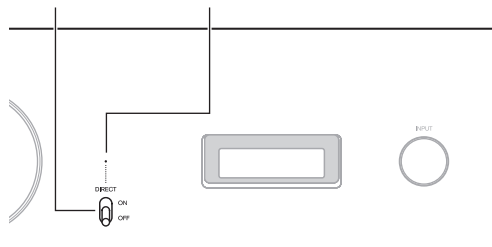
普通 ↔ 暗い

普通

暗い

ご注意

- RI 接続している機器を本機のリモコンで操作するとき、表示部の明るさは 2 段階しか調節できません。

ダイレクト機能を使う

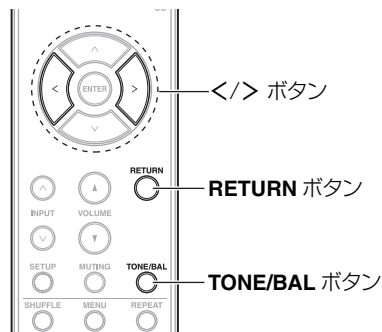
ダイレクト機能をオンにすると音質（低音、高音）経路をバイパスし、音質に有利な最短経路となり、表示管は消灯します。本機では音質に影響を与えない表示管を採用しており、点灯させることもできます。また、左右の出力バランスは音質に影響のない方式を採用しているため、調節することができます。

1 **DIRECT**（ダイレクト） **スイッチを ON**（オン） **に切り換える**
表示部が消灯し **DIRECT** LED が点灯します。

ヒント

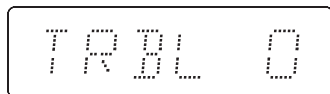
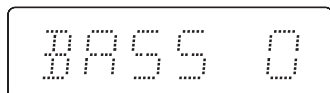
- ダイレクト機能がオンのとき、表示部を点灯させるには **DIMMER** ボタンを押します。

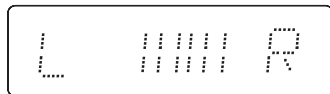
音質とバランスを調節する

低音、高音、左右の出力バランスを調節します。

■ リモコンで操作する

1 **TONE/BAL** ボタンをくり返し押す

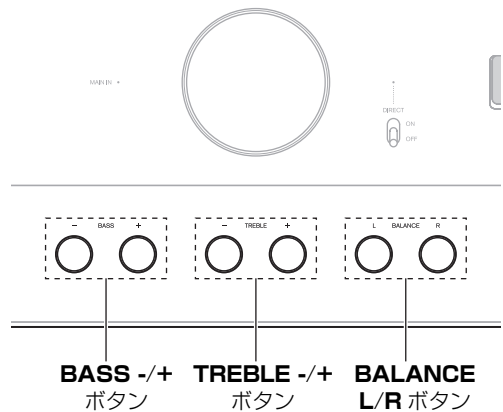
- BASS（低音）:
- TRBL（高音）:

  「-6」から「+6」の範囲で調節します。

- L, R（バランス）:

  左右の出力バランスを調節します。
  バーが右に進むほど、左スピーカーより右スピーカーからの音量が大きくなり、バーが左に進むほど、右スピーカーより左スピーカーからの音量が大きくなります。バーが無い状態では、左右の音量が同じになります。

2 **</> ボタンをくり返し押す**

設定が自動的に確定します。

調節を終了する場合は、**RETURN** ボタンを押します。

■ 本体で操作する

1 **BASS -/+ ボタン、TREBLE -/+ ボタン、BALANCE L/R ボタンをくり返し押す**

設定が自動的に確定します。

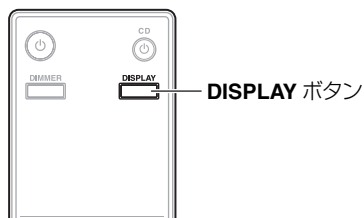
ヒント

- お買い上げ時は「BASS」、「TRBL」が「0」、バランスがセンター（バー表示無し）に設定されています。

ご注意

- 設定中に 5 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。
- ダイレクト機能がオンの場合、**BASS -/+** ボタンまたは **TREBLE -/+** ボタンを押すと「DIRECT」と表示され調節できません。
- ヘッドホンを接続しているとき、バランス調節すると「PHONES」と表示され調節できません。

表示を切り換える

選択中の入力や設定値を表示します。

1 DISPLAY（ディスプレイ）**ボタンをくり返し押す**

現在の入力

音量

低音

高音

入力サンプリング周波数

プリエンファシス信号の検出

ルート設定

RETURN（リターン） ボタンを押して終了します。

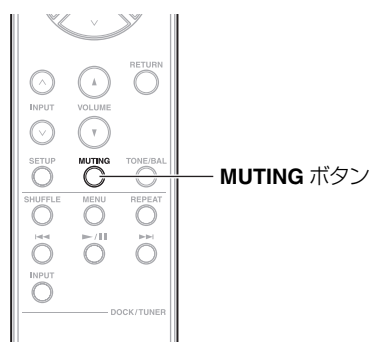
ご注意

- 入力サンプリング周波数はデジタル入力（「COAX1」、「COAX2」、「OPT」）を選択しているときに表示されます。
- ソースによっては、表示されている入力サンプリング周波数の値が実際の値と異なる場合があります。
- 「BASS」と「TRBL」はダイレクト機能がオンのときは表示されません。
- 本機では、高音域が強調されるプリエンファシス処理の施された信号を検出すると元の特性に戻すディエンファシス機能が自動的に働きます。この信号が検出された場合、「EMPHAS」と表示されます。
- 「ROUTE」を「MAIN」に設定している場合、**DISPLAY** ボタンは使用できません（➔ P.38）。

ヒント

- 入力サンプリング周波数の変更を検出すると、自動的に数値が表示されます。

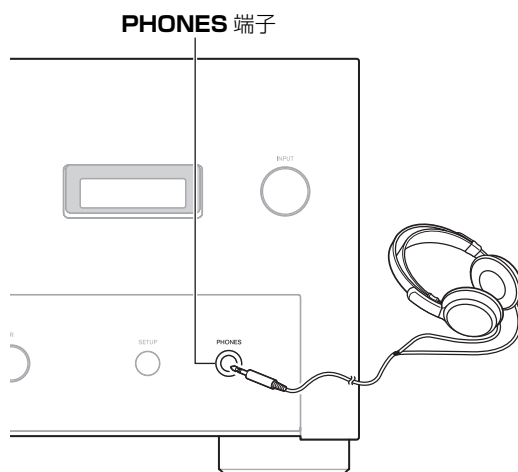
一時的に音量を小さくする

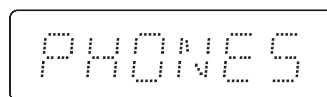
出力を一時的に小さくします。

1 **MUTING ボタンを押す**

表示部に「MUTING」が点滅します。
解除するには、**MUTING** ボタンをもう一度押します。

ご注意

- 一時的に音量を小さくした場合：
  - 音量を調節または本機をスタンバイ状態にすると、この機能は解除されます。
  - **INPUT** ∧/∨ ボタンまたは **INPUT** ダイヤルで入力を切り換えると表示部に現在の入力名が 3 秒間表示されます。
- 設定中に **MUTING** ボタンを押すと、設定が終了して消音状態になります。
- 「MUTING」が表示中に AC プラグを抜いても、次回電源オンしたとき消音状態を維持しています。

ヘッドホンで聴く

1 **標準プラグ（6.3mm）のステレオヘッドホンを PHONES 端子に接続する**

ヘッドホンを接続すると表示部に「PHONES」と表示され **A**/**B** LED は消灯します。

VOLUME ▲/▼ ボタンで音量の調節ができます。

ヘッドホンを接続するとスピーカーと **PRE OUT** 端子から音声は出力されません。

ヒント

- スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、オフセットレベルを調節できます（➔ P.36）。

ご注意

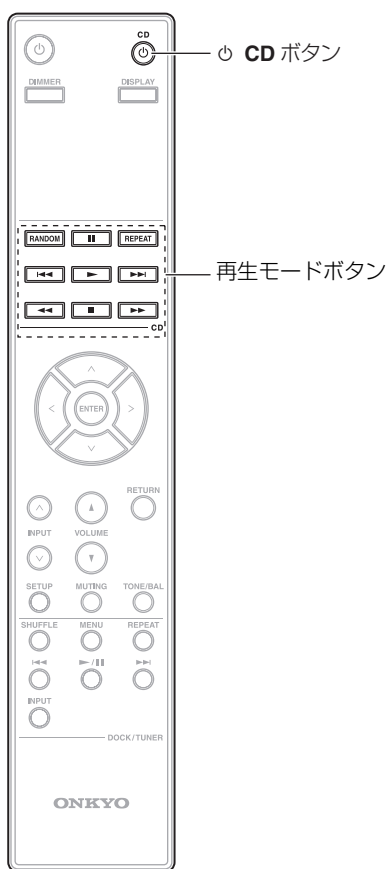
- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホンを接続しているとき、バランス調節する、または **SPEAKERS** ボタンを押すと「PHONES」と表示され使用できません。

本機のリモコンで他のオンキヨー製品を操作する

オンキヨー製 CD プレーヤーを操作する

本機のリモコンを使ってオンキヨー製 CD プレーヤーを操作できます。
リモコンを CD プレーヤーのリモコン受光部に向けて操作します。

ご注意

• 製品によっては対応していないものや一部操作が出来ないものもあります。

⏻ CD ボタン
CD プレーヤーの電源オン / スタンバイを切り換えます。

RANDOM（ランダム）ボタン
ランダム再生します。

❚❚ ボタン
再生を一時停止します。

REPEAT（リピート）ボタン
リピートモードが切り換わります。

⏮ ボタン
現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、2 回押します。

► ボタン
再生を開始します。

⏭ ボタン
次の曲を選択します。

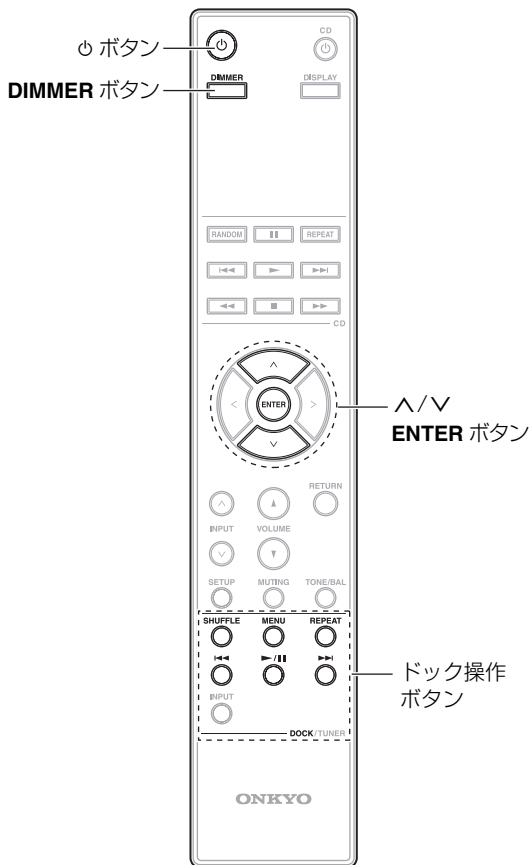
◄◄ ボタン
現在の曲を早戻しします。

■ ボタン
再生を停止します。

►► ボタン
現在の曲を早送りします。

オンキヨー製ドックを操作する

本機とオンキヨー製ドックを接続し、iPod の音楽ファイルを再生します。
本機のリモコンで、iPod の基本的な操作を行うことができます。iPod のモデルによっては、操作できない場合があります。

オンキヨー製ドックを操作するには、RI 接続が必要です（➔ P.19）。
リモコンでドックを使用するには、入力の入力名を「DOCK」に切り換える必要があります（➔ P.34）。

ボタン
オンキヨー製ドックをスタンバイにします。

DIMMER（ディマー） ボタン
表示部の明るさを切り換えます。

∧/∨/ ENTER（エンター） ボタン
音楽ファイルを選択します。

SHUFFLE（シャッフル） ボタン
シャッフル再生します。

MENU（メニュー） ボタン
iPod メニューを開きます。メニューを開いているときは、ひとつ前のメニューを表示します。

REPEAT（リピート） ボタン
リピートモードが切り換わります。

⏮ ボタン
現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、2 回押します。

►/❚❚ ボタン
曲を再生、一時停止します。

⏭ ボタン
次の曲を選択します。

ヒント

- iPod に他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選べないことがあります。
- 本機のボリュームつまみで、再生音量を調節してください。
- iPod がオンキヨー製ドックにセットされている間は、iPod の音量操作は効果がありません。

ご注意

- 設定した自動スタンバイが作動すると、RI で接続しているオンキヨー製ドックも自動的に電源がオフになります（➔ P.37）。

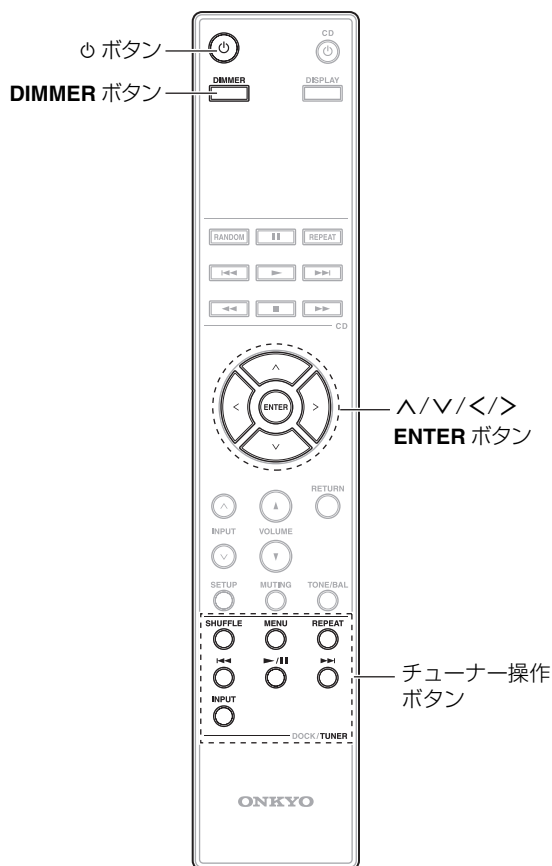
iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

オンキヨー製ドックについて

ドックは別売りです。
デジタル接続タイプのオンキヨー製ドックをご使用ください。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用の iPod を iTunes 経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応している iPod のモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

オンキヨー製ネットワークチューナーを操作する

オンキヨー製ネットワークチューナーを本機に接続して、音楽を再生します。本機のリモコンを使って、ネットワークチューナーを操作できます。ボタン機能は、ネットワークチューナーの入力によって動作が異なります。

オンキヨー製ネットワークチューナーを操作するには、RI 接続が必要です（➔ P.19）。
リモコンでネットワークチューナーを操作するには、入力の入力名を「TUNER」に切り換える必要があります（➔ P.34）。

⏻ ボタン
オンキヨー製ネットワークチューナーをスタンバイにします。

DIMMER ボタン
表示部の明るさを切り換えます。

∧/∨/</>/ENTER ボタン
設定項目を選択します。**ENTER** ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

SHUFFLE ボタン
シャッフル再生します（ネットワークチューナーの入力が USB または AirPlay の場合に使用します）。

MENU ボタン
各インターネットラジオサービスのトップメニューに移動します（ネットワークチューナーの入力が NET の場合に使用します）。

REPEAT ボタン
リピートモードが切り換わります（ネットワークチューナーの入力が USB または AirPlay の場合に使用します）。

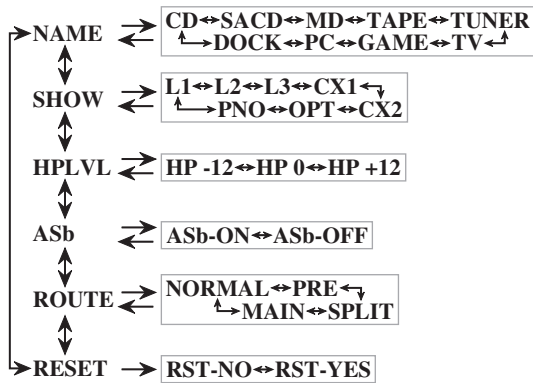
⏮ ボタン
現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、2 回押します（ネットワークチューナーの入力が USB または AirPlay の場合に使用します）。
ひとつ前のインターネットラジオ局を選択します（ネットワークチューナーの入力が NET の場合に使用します）。
ひとつ前のプリセットしたラジオ局を選択します（ネットワークチューナーの入力が TUNER の場合に使用します）。

►/❚❚ ボタン
曲を再生、一時停止します（ネットワークチューナーの入力が USB、NET または AirPlay の場合に使用します）。

⏭ ボタン
次の曲を選択します（ネットワークチューナーの入力が USB または AirPlay の場合に使用します）。
次のインターネットラジオ局を選択します（ネットワークチューナーの入力が NET の場合に使用します）。
次のプリセットしたラジオ局を選択します
（ネットワークチューナーの入力が TUNER の場合に使用します）。

INPUT ボタン
ネットワークチューナーの入力を切り換えます。

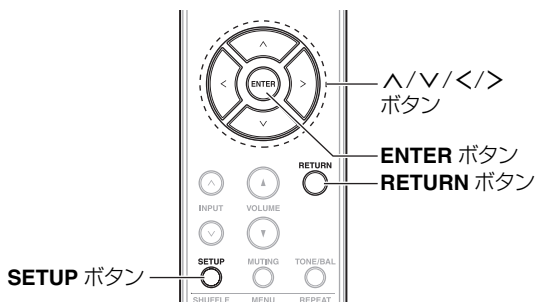
応用設定

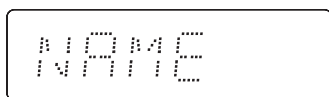
SETUP（セットアップ）ボタンを押して、本機の応用設定をします。
「NAME」、「SHOW」、「HPLVL」、「ASb」、「ROUTE」、「RESET」が設定できます。

ご注意

- 「ROUTE」を「MAIN」に設定している場合、「NAME」、「SHOW」、「HPLVL」、「ASb」は設定できません。
- 「PHONO」入力が選択されている場合、「NAME」は設定できません。

入力名を変更する

現在、選択している入力の入力名を変更します。
以下の入力名から選択できます。
「CD」、「SACD」、「MD」、「TAPE」、「TUNER」、「TV」、「GAME」、「PC」、「DOCK」

■リモコンで操作する

1 SETUP ボタンを押す

2 ∧/∨ ボタンをくり返し押して「NAME」を選択する

3 ENTER（エンター）ボタンを押す

現在の入力名が点滅します。

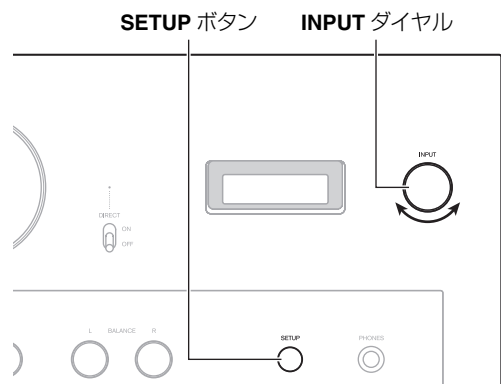
4 </> ボタンをくり返し押して割り当てたい入力名を選択する

選択した入力名が点滅します。

5 ENTER ボタンを押す

選択した入力名が素早く数回点滅し、変更が確定します。

6 RETURN（リターン）ボタンをくり返し押して設定を終了する

■本体で操作する

1 SETUP ボタンをくり返し押して「NAME」を選択する

2 INPUT（インプット）ダイヤルで割り当てたい入力名を選択する

現在の入力名が点滅表示された後、割り当てできる入力名が点滅表示されます。

3 SETUP ボタンを長押しする

選択した入力名が素早く数回点滅し、変更が確定します。

4 SETUP ボタンをくり返し押して設定を終了する

ヒント

- お買い上げ時は、全て端子名に設定されています。

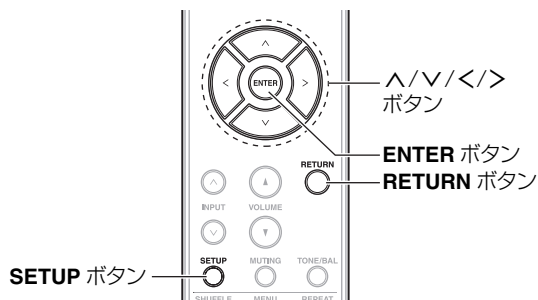
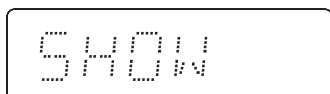
ご注意

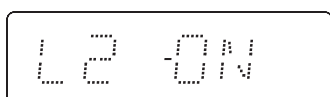
- 既に割り当てられている入力名に変更したときは、以前設定されていた入力の入力名は端子名に戻ります。
- 「PHONO」入力が選択されている場合、「NAME」は設定できません。
- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

入力名の表示 / 非表示を切り換える

使用していない入力の入力名を非表示に設定することで、入力切り換え時に省略します。以下の入力の設定を変更できます。
「L1」(「LINE1」)、「L2」(「LINE2」)、「L3」(「LINE3」)、「CX1」(「COAX1」)、「CX2」(「COAX2」)、「OPT」、「PNO」(「PHONO」)

■ リモコンで操作する

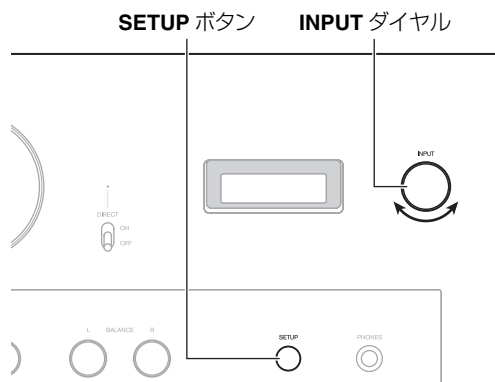
1 セットアップ **SETUP ボタンを押す**

2 **∧/∨ ボタンをくり返し押して「SHOW」を選択する**

3 エンター **ENTER ボタンを押す**

4 **∧/∨ ボタンをくり返し押して切り換えたい入力を選択する**

5 **</> ボタンを押して「ON」と「OFF」を切り換える**

- ON:
  入力切り換え時に入力名を表示する
- OFF:
  入力切り換え時に入力名を非表示にする

設定が自動的に確定します。

6 リターン **RETURN ボタンをくり返し押して設定を終了する**

■ 本体で操作する

1 **SETUP ボタンをくり返し押して「SHOW」を選択する**

2 インプット **INPUT ダイヤルで切り換えたい入力を選択する**

3 **SETUP ボタンを長押しする**
「ON」と「OFF」が切り換わり、設定が自動的に確定します。

4 **SETUP ボタンをくり返し押して設定を終了する**

ヒント

- お買い上げ時は、すべて「ON」に設定されています。

ご注意

- 現在、選択している入力の入力名は表示されません。例えば、「LINE1」入力を選択しているとき「L1」は表示されません。
- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

ヘッドホンの音量を設定する

ヘッドホン接続時に、音量の設定ができます。

■リモコンで操作する

1 **SETUP ボタンを押す**

2 **∧/∨ ボタンをくり返し押して「HPLVL」を選択する**

3 **ENTER ボタンを押す**

現在のオフセットレベルが表示されます。

4 **</> ボタンをくり返し押してオフセットレベルを調節する**

オフセットレベルを「-12」dB から
「+12」dB の範囲で 1dB 単位で調節します。
設定が自動的に確定します。

5 **RETURN ボタンをくり返し押して設定を終了する**

■本体で操作する

1 **SETUP ボタンをくり返し押して「HPLVL」を選択する**

2 **INPUT ダイヤルでオフセットレベルを調節する**

現在のオフセットレベルが表示された後、オフセットレベルを調節します。
設定が自動的に確定します。

3 **SETUP ボタンをくり返し押して設定を終了する**

ヒント

- お買い上げ時は、「0」に設定されています。

ご注意

- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

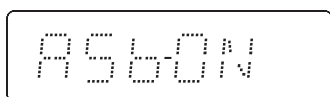
自動スタンバイを設定する

自動スタンバイをオンに設定したとき、音声入力がない状態で本機を 30 分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態になります。

■ リモコンで操作する

1 **SETUP ボタンを押す**

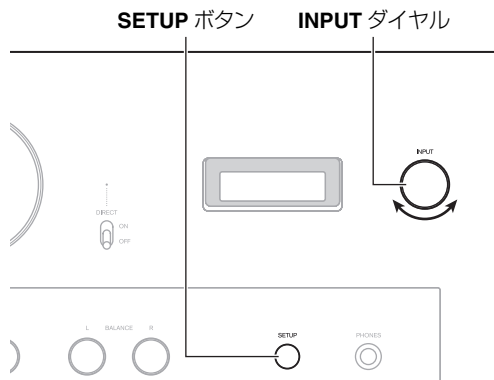
2 **∧/∨ ボタンをくり返し押して「ASb」を選択する**

3 **ENTER ボタンを押す**
現在の設定が表示されます。

4 **</> ボタンを押して「ASb-ON」と「ASb-OFF」を切り換える**
- ASb-ON:
  自動スタンバイを有効にします。
- ASb-OFF:
  自動スタンバイを無効にします。

設定が自動的に確定します。

5 **RETURN ボタンをくり返し押して設定を終了する**

一度自動スタンバイ機能でスタンバイ状態になると、信号を入力しても電源はオンになりません。
本機の ⏻**ON/STANDBY** ボタンまたはリモコンの ⏻ ボタンを押して、電源をオンにしてください。

■ 本体で操作する

1 **SETUP ボタンをくり返し押して「ASb」を選択する**

2 **INPUT ダイヤルで「ASb-ON」と「ASb-OFF」を切り換える**
現在の設定が表示された後、「ON」と「OFF」が切り換わります。
設定が自動的に確定します。

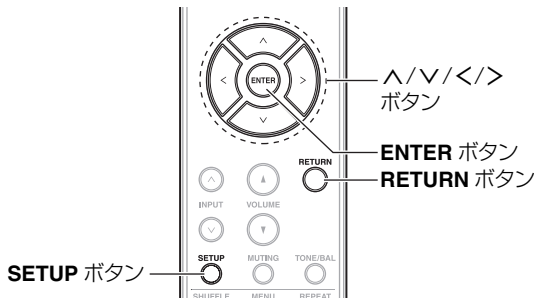
3 **SETUP ボタンをくり返し押して設定を終了する**

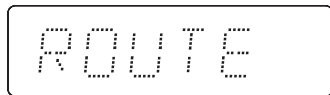
ヒント
- お買い上げ時は、「OFF」に設定されています。

ご注意
- 設定した自動スタンバイが作動すると、RI 接続しているオンキヨー製 CD プレーヤー、ネットワークチューナー、RI ドックも自動的に電源がオフになります (➔ P.19)。
- スタンバイ状態になる直前の 30 秒間、表示部に「ASb」が点滅します。
- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

ルートを設定する

本機の使用方法（ルート）を「NORMAL」モード、「PRE」モード、「SPLIT」モード、「MAIN」モードから選択します。

■ リモコンで操作する

1 SETUP ボタンを押す

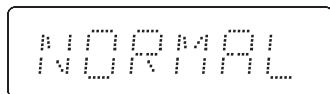
2 ∧/∨ ボタンをくり返し押して「ROUTE」を選択する

3 ENTER ボタンを押す

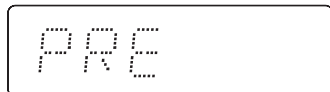
現在のルートが表示されます。

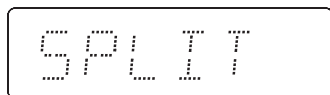
4 </> ボタンをくり返し押して設定したいルートを選択する

選択したルートが点滅します。

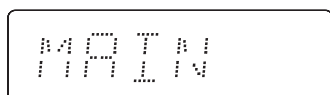
- NORMAL:

  本機をプリメインアンプとして使用します。

- PRE:

  本機をプリアンプとして使用します（➔ P.22）。

- SPLIT:

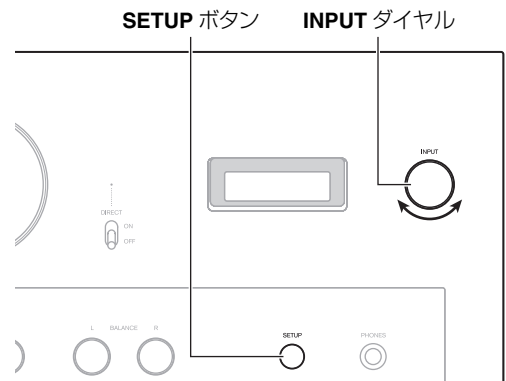
  プリアンプ部とパワーアンプ部を分けて使用します（➔ P.23）。

- MAIN:

  パワーアンプとして使用します（➔ P.24）。

  MAIN IN LED が点灯します。

5 ENTER ボタンを押す

選択したルートが素早く数回点滅し、設定が確定します。

6 RETURN ボタンをくり返し押して設定を終了する

■ 本体で操作する

1 SETUP ボタンをくり返し押して「ROUTE」を選択する

2 INPUT ダイヤルで設定したいルートを選択する

現在のルートが表示された後、設定できるルートが点滅表示されます。

3 SETUP ボタンを長押しする

選択したルートが素早く数回点滅し、設定が確定します。

4 SETUP ボタンをくり返し押して設定を終了する

ヒント

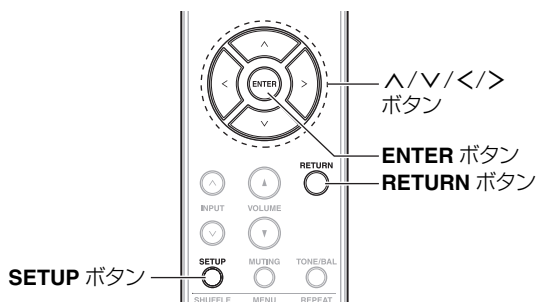
- お買い上げ時は、「NORMAL」に設定されています。

ご注意

- 「PRE」モードに設定している間、**SPEAKERS** ボタンは使用できません。
- 「SPLIT」モードで音声を出力するためには **PRE OUT** 端子と **MAIN IN** 端子の両方に接続してください。
- 「MAIN」モードに設定している間、**SPEAKERS** ボタンと **SETUP** ボタンの機能のみ使用できます。
- 「MAIN」モードで **MAIN IN** 端子に入力された音声は、約 32dB 増幅して出力されます。
- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

初期設定に戻す

本機をお買い上げ時の設定に戻します。

■リモコンで操作する

1 **SETUP ボタンを押す**

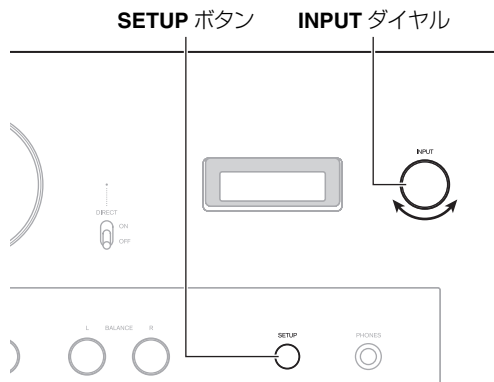
2 **∧/∨ ボタンをくり返し押して「RESET」を選択する**

3 **ENTER ボタンを押す**
現在の設定が点滅表示されます。

4 **</> ボタンを押して「RST-NO」と「RST-YES」を切り換える**

- RST-YES:
  本機をお買い上げ時の状態に戻します。
- RST-NO:
  設定をキャンセルします。

5 **ENTER ボタンを押す**
「RST-YES」を選択した場合、表示部に「CLEAR」と表示され、本機の電源が自動的にオフになります。
「RST-NO」を選択した場合、「RESET」メニューに戻ります。

■本体で操作する

1 **SETUP ボタンをくり返し押して「RESET」を選択する**

2 **INPUT ダイヤルで「RST-NO」と「RST-YES」を切り換える**
現在の設定が点滅表示された後、「NO」と「YES」が切り換わります。

3 **SETUP ボタンを長押しする**
「RST-YES」を選択した場合、表示部に「CLEAR」と表示され、本機の電源が自動的にオフになります。
「RST-NO」を選択した場合、「RESET」メニューに戻ります。

ご注意

- 設定中に 8 秒以上無操作の状態が続く場合、設定が終了します。

困ったときは

まず、下記の内容を点検してみてください。
お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡いただく前に本機をお買い上げ時の状態に戻してみてください。トラブルが解消されることがあります。お買い上げ時の設定に戻す方法は「初期設定に戻す」をご覧ください（➔ P.39）。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください（➔ P.15）。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。
- 本機の電源が入らない場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

本機の電源が切れる

- 自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります（➔ P.37）。
- 保護回路がスピーカーコードのショート、過負荷、過電流などにより動作すると、本機はスタンバイ状態になります。原因を取り除いてから電源をオンにしてください。

音声

音声が出力されない

- 本機の音量が最小になっていないか確認してください（➔ P.26）。
- 適切な入力ソースが選ばれていることを確認してください（➔ P.27）。
- 「MUTING」表示が点滅していないか確認してください（➔ P.30）。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください（➔ P.12）。
- すべての接続に間違いがないか確認してください（➔ P.12）。
- ヘッドホンを接続しているときは、本機の **PRE OUT**（プリ アウト）端子とスピーカーから音は出ません（➔ P.30）。
- PCM 以外のデジタル音声信号はサポートされていません。PCM 以外のデジタル音声信号を入力したときはノイズが生じます。
- 「ROUTE」を「NORMAL」以外に設定したときは、それぞれのモードに適した接続をしているか確認してください（➔ P.22 ～ 24、38）。

音質が悪い

- スピーカーケーブルが正しい極性で接続されていることを確認してください（➔ P.12）。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください（➔ P.15）。
- テレビなど磁気の強い場所では、音質が影響を受ける場合があります。本機をそのような機器から離してみてください。
- 通話中の携帯電話など、強度の高い電波を発する機器が近くにある場合、ノイズを出力する場合があります。

ヘッドホンの音声が途切れるまたは、出力されない

- 接続部が汚れているのが原因です。プラグのクリーニングを行ってください。クリーニングの方法については、お使いのヘッドホンの取扱説明書をご覧ください。また、ヘッドホンケーブルが壊れたり、傷ついたりしていないか確認してください。
- 「ROUTE」が「MAIN」に設定されていないか確認してください（➔ P.38）。

音声性能

- 10 ～ 30 分間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- コード留めを使ってオーディオ用ピンコード、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- 本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。
- 頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に 4 つの足に分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
- 電源コードを壁コンセントに接続してください。

オンキヨー製ドック

音が出ない

- 本機にオンキヨー製ドックが正しく接続されていることを確認してください。
- ビデオコンテンツが再生されていないことを確認してください。
- iPod をリセットしてください。

その他

- 設定した自動スタンバイが作動すると、RI 接続しているオンキヨー製ドックも自動的に電源がオフになります（➔ P.37）。

リモコンが正しく動作しない（連動しない）

- RI ケーブルが本機に正しく接続されているか確認してください。
  入力の入力名を変更してください（➔ P.34）。

接続機器

接続された機器から音が出ない

- 入力ソースが正しく選ばれていることを確認してください（➔ P.27）。
- 「ROUTE」を「NORMAL」以外に設定したときは、それぞれのモードに適した接続をしているか確認してください（➔ P.22 ～ 24、38）。
- アナログ音声ケーブルが正しく接続されているか確認してください（➔ P.15）。

レコードプレーヤーからの音がひずむ

- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合、**LINE IN 1**（ライン イン）端子などその他のアナログ入力端子に接続してください。
- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵していない場合、**PHONO**（フォノ）端子に接続してください（➔ P.20）。
- アース（接地）線を接続しているか確認してください。レコードプレーヤーによっては、ノイズの原因になります。
- レコードプレーヤーのカートリッジ形式に合わせて **MM**/**MC** の切り換えが正しくできているか確認してください。

電源オン / オフ時にポップノイズを発生することがある

- それぞれ以下の順番で電源をオン、またはオフにしてください。

電源をオンにする順番：
1. ソース機器
2. インテグレーテッドアンプ（A-9070）

電源をオフにする順番：
1. インテグレーテッドアンプ（A-9070）
2. ソース機器

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください（➔ P.7）。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください（➔ P.7）。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の電源をスタンバイにしてから抜いてください。

音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力（ステレオ）	75W（8Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 140W（4Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、2ch 駆動時、JEITA）
実用最大出力（ステレオ）	110W（8Ω、1kHz、全高調波歪率 10% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 180W（4Ω、1kHz、全高調波歪率 10% 以下、2ch 駆動時、JEITA）
ダイナミックパワー * * IEC-60268-short-term maximum output power.	450W（1Ω） 310W（2Ω） 230W（3Ω） 180W（4Ω） 100W（8Ω）
総合ひずみ率	0.006%（1kHz、ハーフパワー） 0.008%（20Hz ～ 20kHz、ハーフパワー）
ダンピングファクター	130（1kHz、8Ω）
入力感度 / インピーダンス（アンバランス）	LINE：150mV/47kΩ PHONO MM：2.25mV/47kΩ PHONO MC：0.18mV/100Ω
RCA 定格出力電圧 / インピーダンス	PRE OUT：1V/300Ω
RCA 最大出力電圧 / インピーダンス	PRE OUT：5V/300Ω
PHONO 最大許容入力	70mV（MM 1kHz 0.5%） 5.2mV（MC 1kHz 0.5%）
周波数特性	10Hz ～ 100kHz/ +0dB、-1dB 1W/8Ω 1Hz ～ 250kHz/ +0dB、-3dB 1W/8Ω
トーンコントロール最大変化量	BASS：± 10dB（80Hz 時） TREBLE：± 10dB（10kHz 時）
SN 比	107dB（LINE、IHF-A） 60dB（PHONO MM、IHF-A） 70dB（PHONO MC、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	スピーカー A または B：4Ω ～ 16Ω スピーカー A および B：8Ω ～ 16Ω
HICC	100A

総合

電源・電圧	AC100V・50/60Hz
消費電力	250W
無音時消費電力	75W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	435（幅）× 174.5（高さ）× 431（奥行）mm
質量	18.1kg

■音声入力

デジタル	OPTICAL：1 COAXIAL：2
デジタル入力対応フォーマット	2ch PCM
デジタル入力サンプリング周波数	32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz（OPT） 32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz/176.4kHz/192kHz（COAX）
アナログ	LINE 1、LINE 2、LINE 3、PHONO（MM/MC）、MAIN IN

■音声出力

アナログ	LINE OUT、PRE OUT
スピーカー	4
ヘッドホン	1（6.3φ）

■その他

RI	2

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お名前
▶ お電話番号
▶ ご住所
▶ 製品名 A-9070
▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　(　　)
メモ：